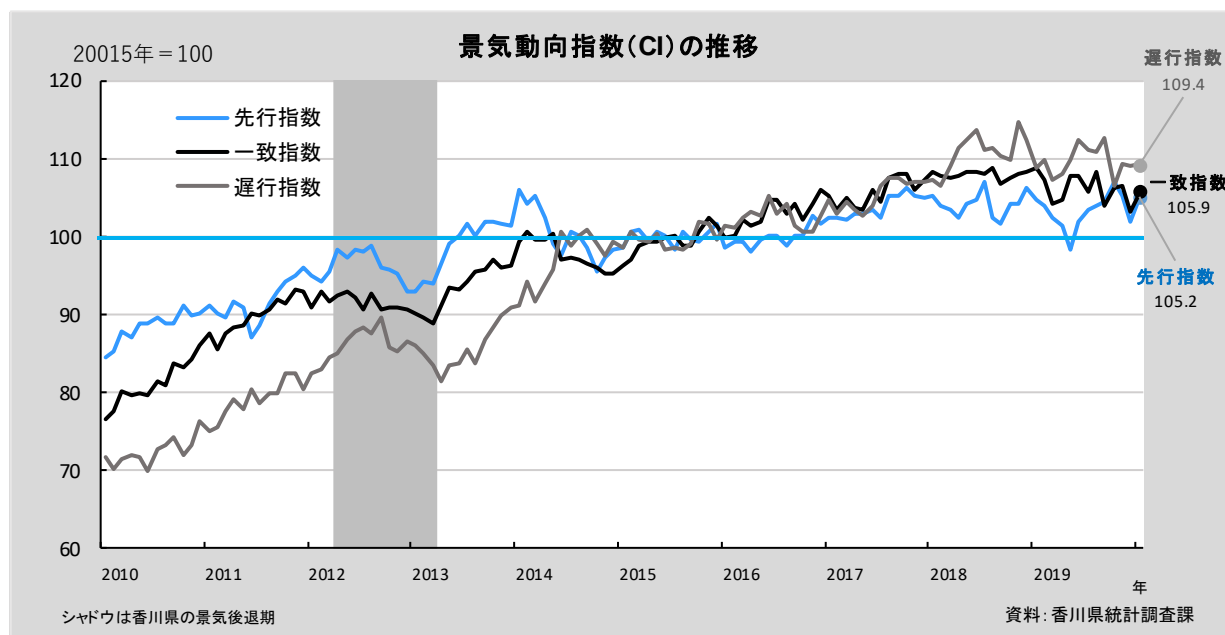


<b>概況</b>	景気は個人消費・住宅投資に弱めの動きもみられるものの、回復している
<b>個人消費</b>	消費税増税の影響もあり、持ち直しに鈍化の兆しがみられる。
<b>住宅投資</b>	減少傾向となっている。
<b>公共投資</b>	緩やかに増加している。
<b>生産活動</b>	横ばい圏内で推移している。
<b>雇用情勢</b>	好調に推移している。
<b>貿易</b>	輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている。
<b>観光</b>	好調に推移している。

## 景気動向指数(かがわCI) 先行指数 3カ月ぶり上昇



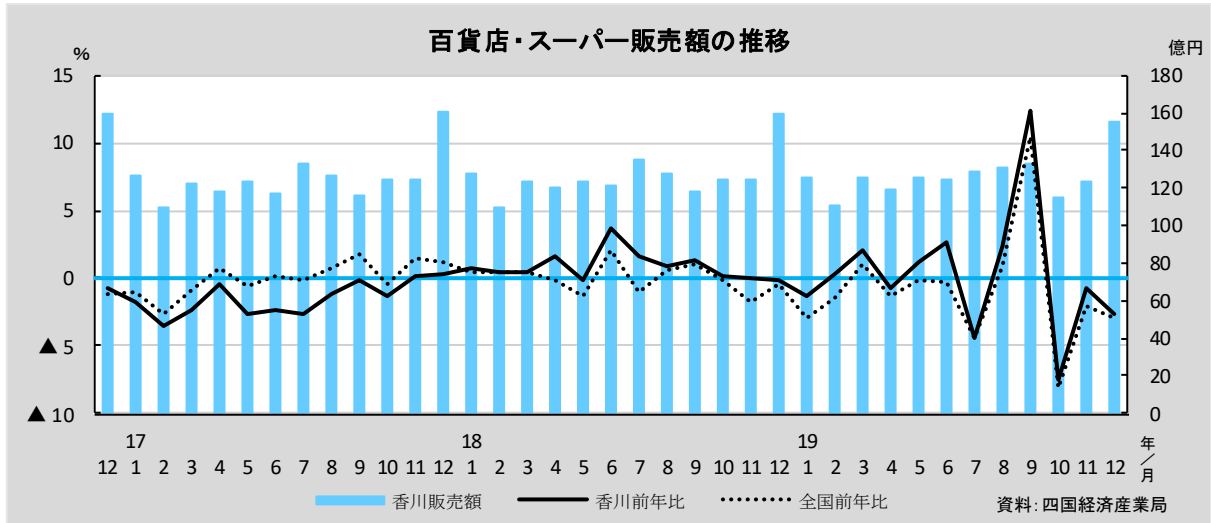
景気の現状をみると、11月のCI一致指数は105.9（前月比+2.7ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI先行指数は105.2（同+3.1ポイント）と、3カ月ぶりに上昇。CI運行指数は109.4（同+0.2ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、乗用車新車登録台数、消費者態度指数など6指標が上昇に寄与したことにより、前月から3.1ポイント上昇した。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.22	1 雇用保険受給者実人員	0.80	1 常用雇用指数	0.35
	2 乗用車新車登録台数	1.44	2 有効求人倍率	▲ 0.23	2 有効求職者数	▲ 0.37
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.41	3 所定外労働時間指数	▲ 0.14	3 消費者物価指数	0.43
	4 生産財生産指数	0.36	4 鉱工業生産指数	0.14	4 家計消費支出	▲ 1.20
	5 新設住宅着工戸数	0.18	5 鉱工業出荷指数	0.47	5 鉱工業在庫指数	0.36
	6 金融機関貸出残高	0.94	6 建築着工床面積	0.55	6 法人事業税調定額	▲ 0.15
	7 消費者態度指数	1.14	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	1.11	7 第3次産業活動指数	0.56

●百貨店・スーパー販売額

3 カ月連続減少



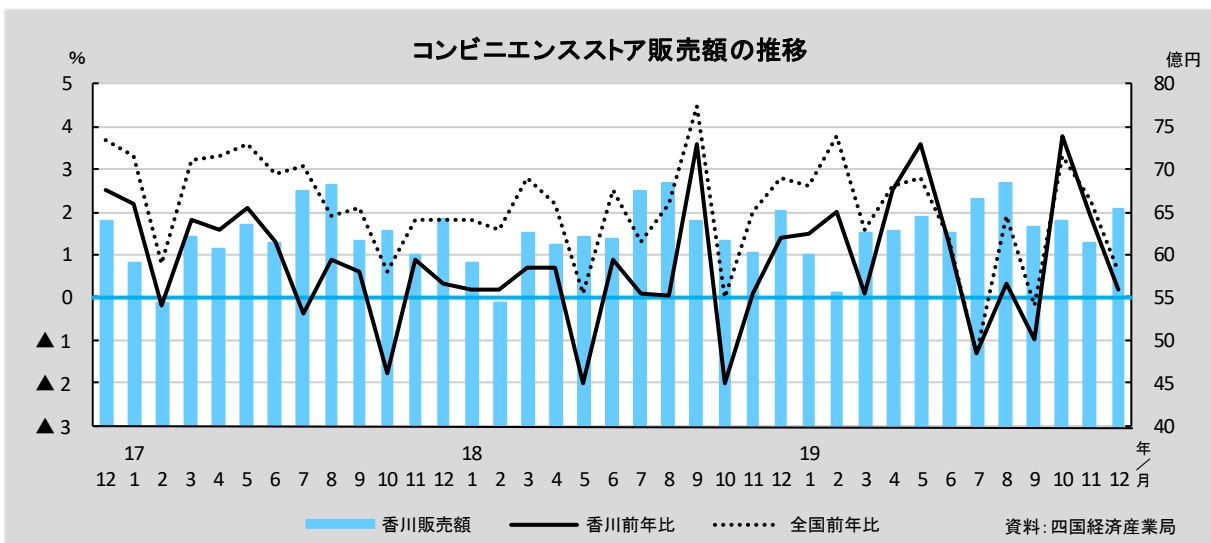
2019/12月	衣料品	身の回り品	飲食物品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	147,625	80,401	1,083,284	2,509	6,450	73,404	163,189	1,243	1,558,105
前年同月比(%)	▲9.1	▲7.3	▲0.4	▲22.9	▲6.9	▲5.9	▲6.6	▲3.6	▲2.7

12月の百貨店・スーパー全店(64店)の販売額は155.8億円で前年同月比▲2.7%となった。暖冬の影響で季節商品が振るわず3カ月連続で減少した。

品目別にみると、全8品目全てが低下した。「衣料品」は気温高でコートなどの冬物衣料の動きが鈍く同▲9.1%。「身の回り品」は手袋・マフラーなどの防寒用品が苦戦し同▲7.3%となった。

●コンビニエンスストア販売額

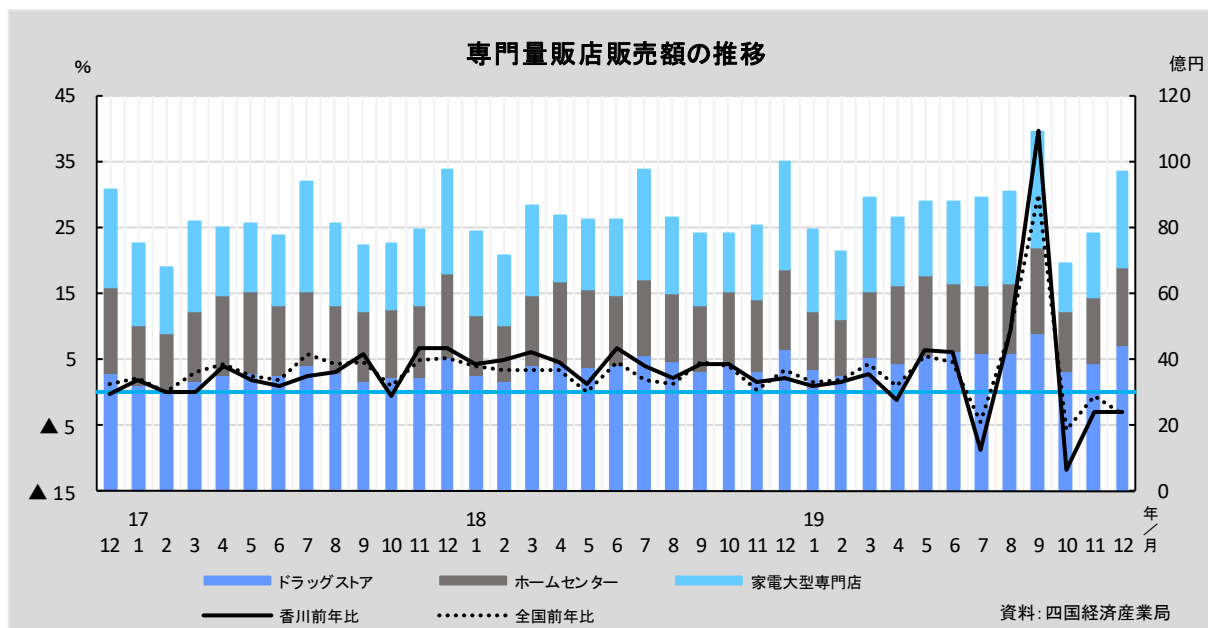
3 カ月連続増加



12月のコンビニエンスストア全店(405店)の販売額は65.3億円で、前年同月比+0.2%と3カ月連続で増加した。

● 専門量販店販売額

3 カ月連続減少

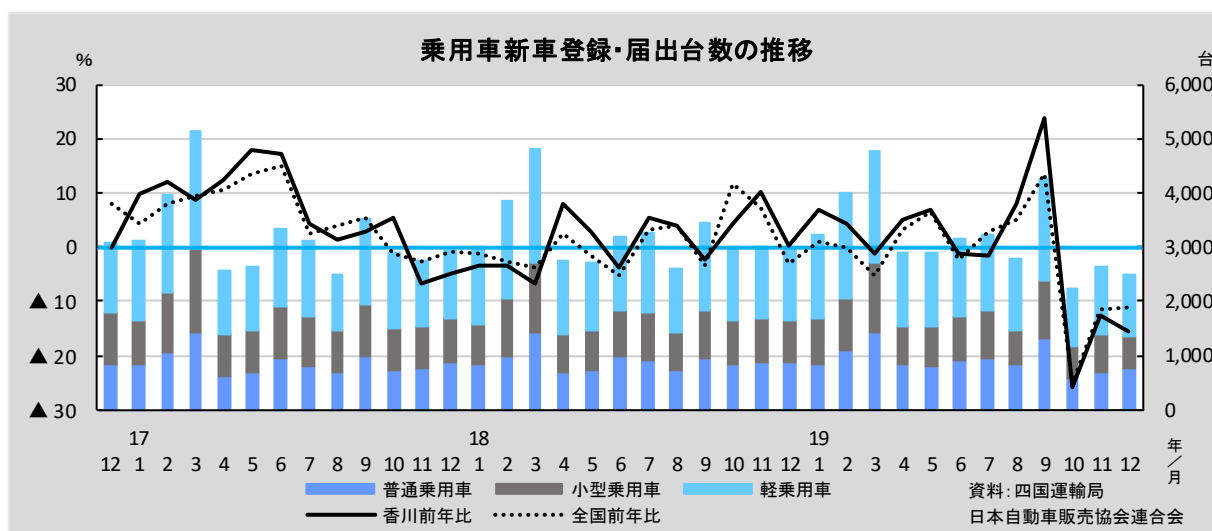


12月の専門量販店全店（199店）の販売額は97億円で、前年同月比▲3.0%と、3カ月連続で減少した。

業態別にみると、暖冬の影響で暖房器具などの季節商品が振るわず家電大型専門店（29店）の販売額は29.1億円で前年同月比▲10.2%、ホームセンター（42店）の販売額は23.6億円で同▲4.4%となった。医薬品・マスクなどが売れドラッグストア（128店）の販売額は44.3億円で同+3.3%となった。

● 乗用車新車販売台数

3 カ月連続減少



12月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,499台で、前年同月比▲15.4%と、3カ月連続で減少した。消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減が続いている。

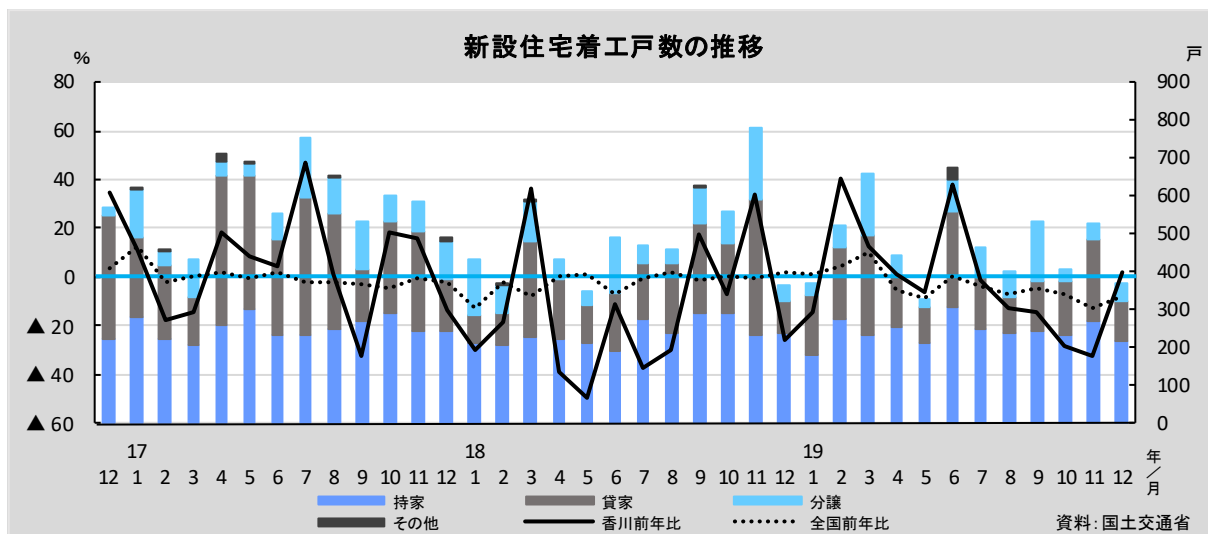
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲10.9%、小型乗用車で同▲24.9%、軽乗用車で同▲12.7%となった。

## 住宅投資

減少傾向となっている

### ●新設住宅着工

6 カ月ぶり増加 ↑



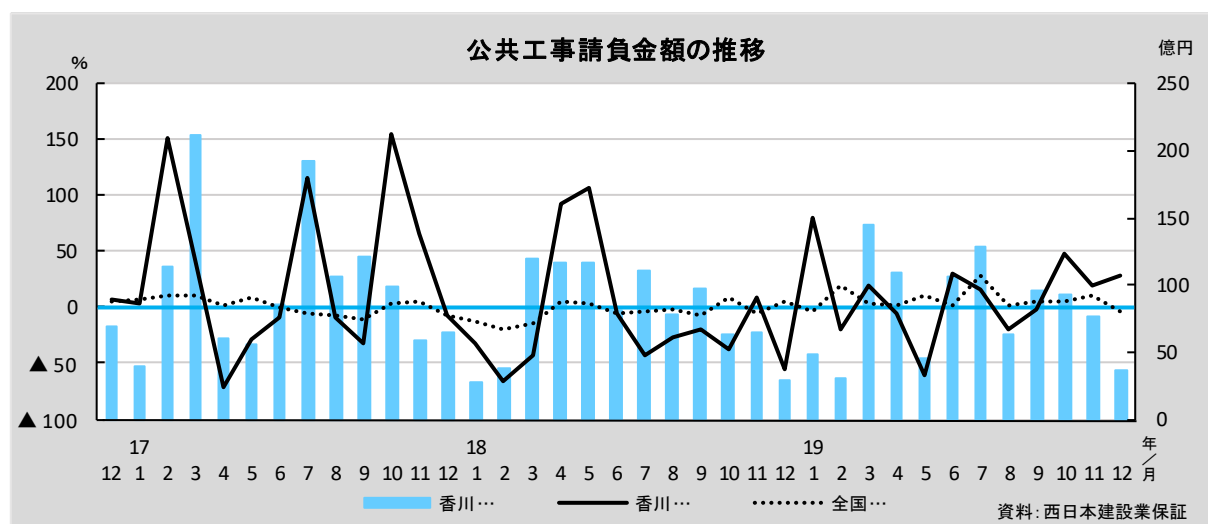
12月の新設住宅着工戸数は369戸で、前年同月比+1.7%と、6か月ぶりに増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲8.1%、**貸家**で同+21.4%、**分譲住宅**で同+16.3%となった。

## 公共投資

緩やかに増加している

### ●公共工事請負金額

3 カ月連続増加 ↑



12月の公共工事請負金額は36.7億円で、前年同月比+28.9%と、3か月連続で増加しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+349.5%、**県**で同+41.9%、**市町**で同▲7.6%となった。

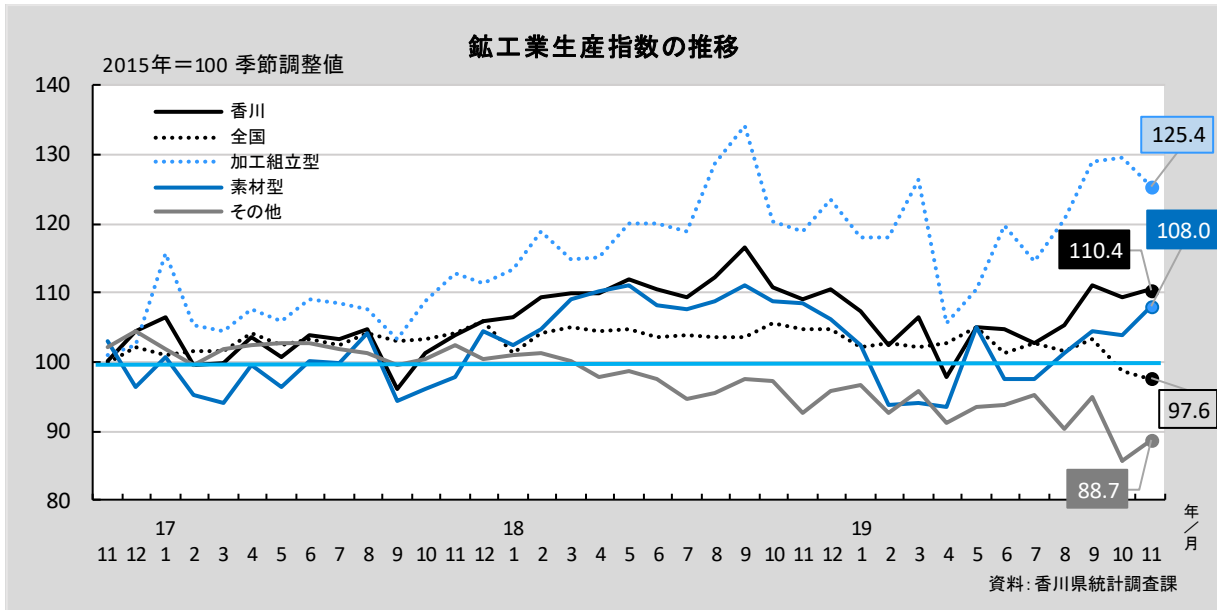
4～12月の年度累計では前年同期比0.1%減少している。

生産活動

横ばい圏内で推移している

● 鉱工業生産指数

2 カ月ぶり上昇 ↑



11月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は110.4（前月109.3）となり、2カ月ぶりに上昇した。

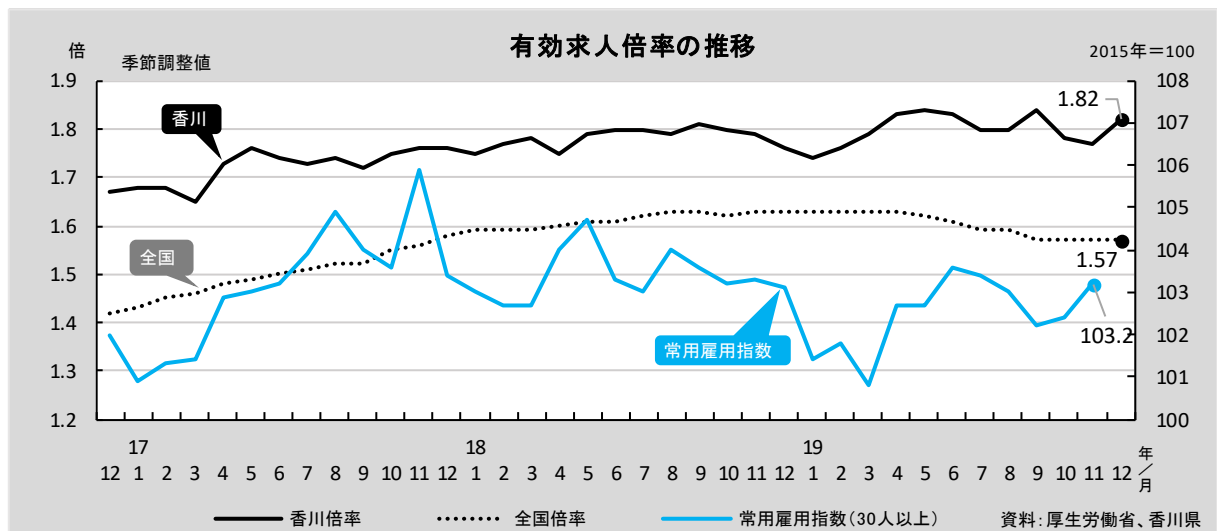
業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金）が前月比+24.0%、化学・石油石炭製品工業（塩、硫酸）が同+7.9%となり上昇に寄与した。一方、加工組立型の輸送機械工業（鋼船）が同▲12.4%と低下した。

雇用情勢

好調に推移している

● 有効求人倍率

3 カ月ぶり上昇 ↑



12月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.82倍（全国8位）と前月より0.05ポイント上昇した。

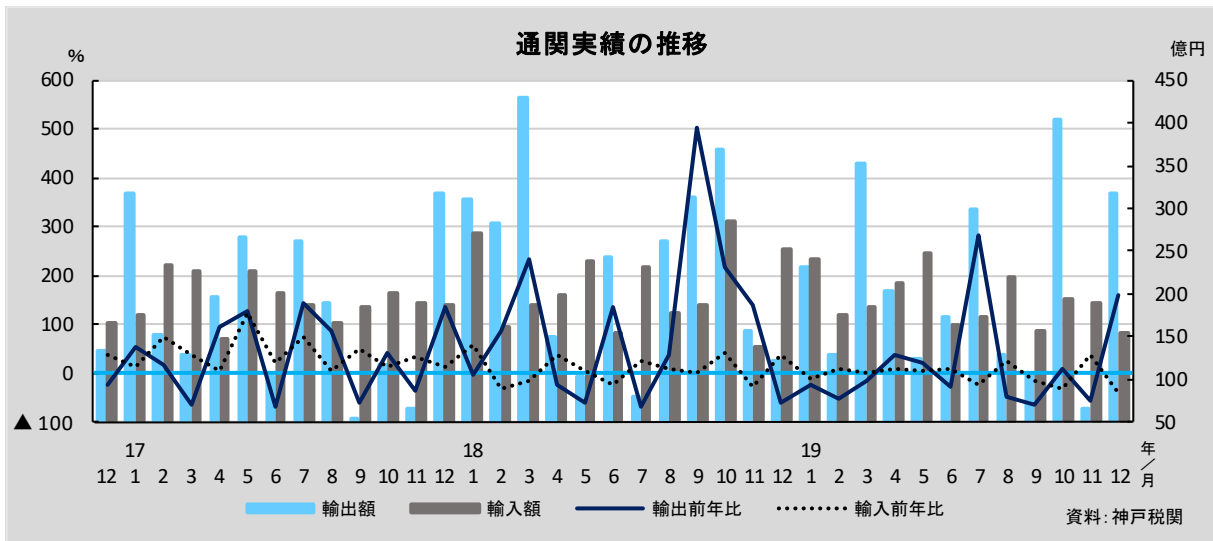
新規求人（原数値：前年同月比）は、卸売業・小売業、製造業等で増加し、サービス業（他に分類されないもの）、宿泊業・飲食サービス業等で減少となり、全体で11.2%増と3カ月ぶりに増加した。

11月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、103.2となり、前年同月比4カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.61
事務的職業	0.67
販売の職業	2.53
サービスの職業	4.05
生産工程の職業	2.60
輸送・機械運転の職業	3.24
建設・探掘の職業	6.13
運搬・清掃・包装等の職業	1.13

## 貿易

輸出入とも横ばい圏内の動きとなっている



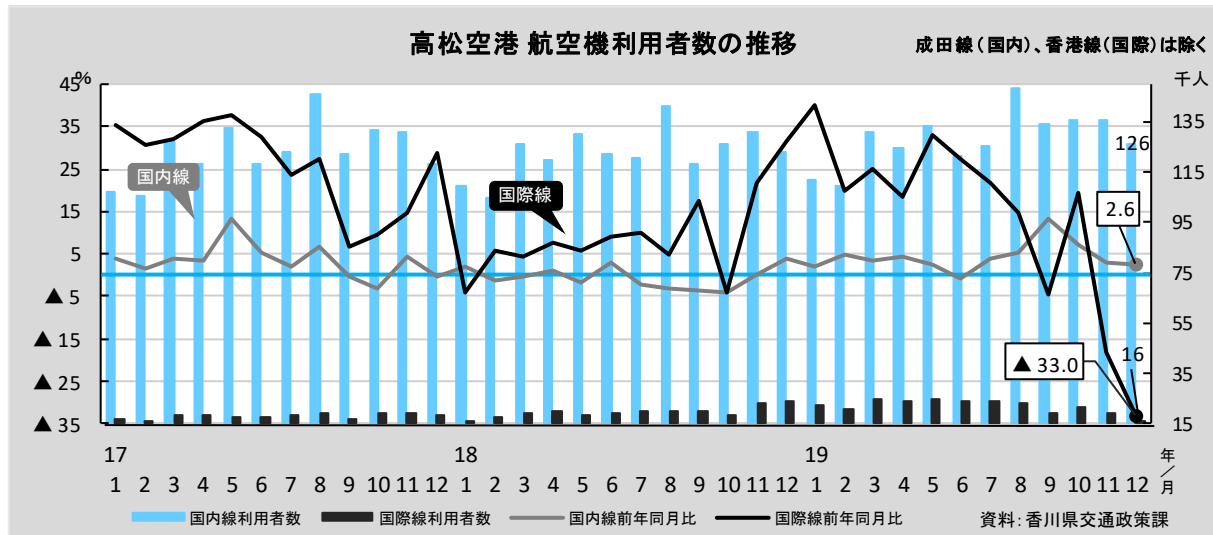
12月の通関輸出額は前年同月比+160.1%の317.3億円、輸入額は同▲38.8%の153.8億円となり、差し引き163.5億円の出超となっている。

輸出額増の主因は、前年同月では実績のなかったタンカー輸出額が213億円となったためである。輸入額減の主因は、石炭輸入額が前年同月比▲48.0%の63億円となったためである。

## 交通

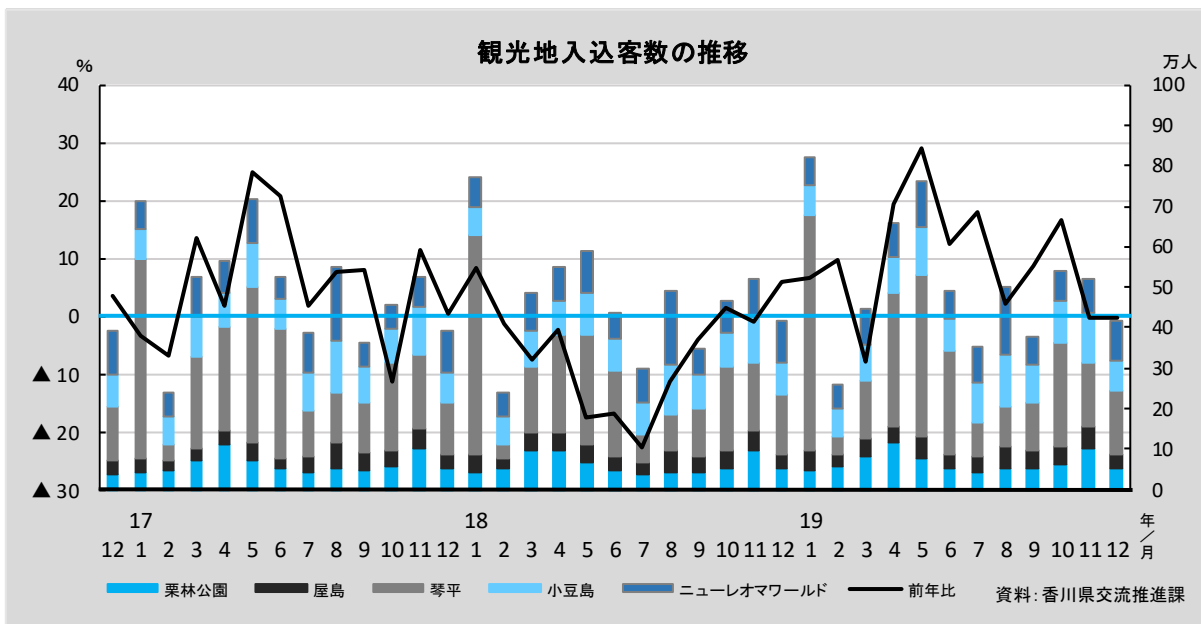
好調に推移している

### ●高松空港旅客輸送実績



12月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が126,290人(前年同月比+2.6%)となり、6カ月連続で増加した。国際線(ソウル・上海・台北線)は15,898人(同▲33.0%)となり、2カ月連続で減少した。日韓関係の悪化を受け10月より減便しソウル線が前年同月比▲61.2%、12月より減便した台北線が同▲17.8%となったことが影響した。

●主要観光地入込客数

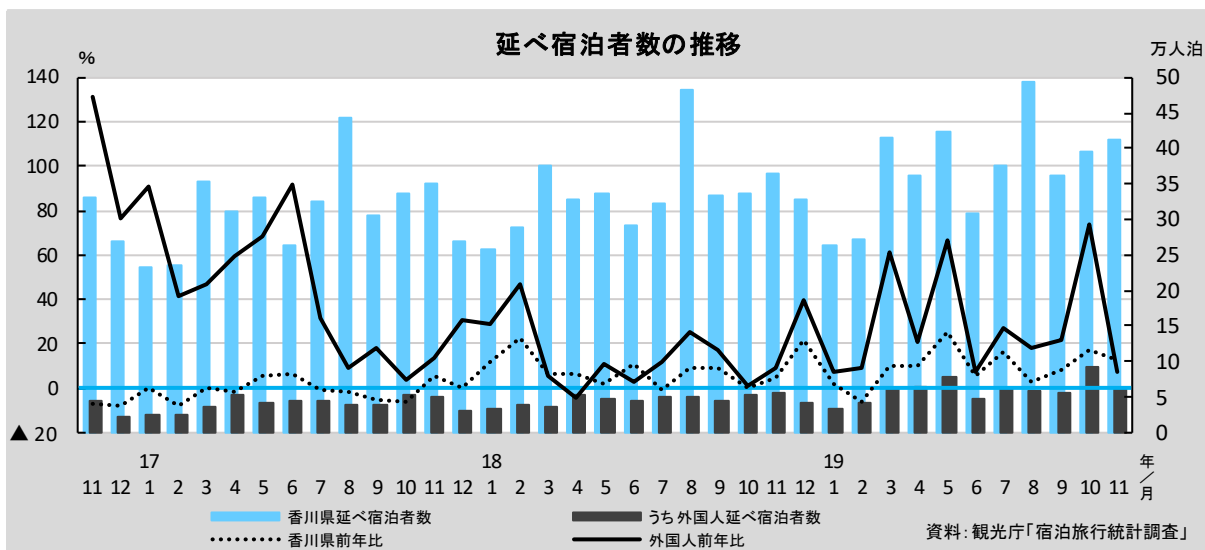


観光地入込客数	栗林公園	屋島	琴平	小豆島	ニューレオマワールド	合計
12月(人)	49,698 ▲5.5%	38,540 16.5%	155,000 3.3%	76,180 ▲3.1%	94,974 ▲6.0%	414,392 ▲0.2%
1~12月累計(人)	782,759 9.0%	524,589 7.4%	2,630,000 16.3%	1,153,474 8.2%	1,058,614 ▲1.5%	6,149,436 9.6%

12月の主要観光地(ニューレオマワールド含む)の入込客数は、前年同月比▲0.2%と2カ月連続で減少。屋島は+16.5%と増加したものの、栗林公園▲5.5%、小豆島▲3.1%、ニューレオマワールドが▲6.0%と減少した。

1~12月の累計では前年比+9.6%と高水準を維持している。

●延べ宿泊者数



11月の延べ宿泊者数は、410,940人で、前年同月比+12.4%と9カ月連続で増加した。うち、外国人延べ宿泊者数は、60,420人となり、同+7.5%と19カ月連続で増加した。